

様式 1 2

活動報告書

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人クレヨン・リンク</p>
<p>事業名</p>	<p>障がい者福祉事務所のネットワーク型スキルアップ連続研修</p>
<p>事業実績の概要 (月日、参加者数等)</p>	<p>5月26日(金)「権利を守る」～虐待防止法と障害者差別解消法を通して～ 講師：松波 めぐみ氏 参加者19名 市民総合センター</p> <p>7月28日(金)「相談支援とメンタルケア」 講師：宮崎 礼子氏 参加者19名 市民総合センター</p> <p>10月6日(金)「ハラスメント防止」 講師：松井 一恵氏 参加者18名 市民総合センター</p> <p>12月5日(火)「自他を傷つけない介助」～武道の達人から学ぶ～ 講師：廣木 道心氏 参加者19名 市民総合センター</p> <p>3月22日(金)「福祉事務所と人権」 講師：松岡 秀紀氏 参加者12名 市民総合センター</p>
<p>事業の効果</p>	<p>福祉事務所として必須の研修はもとより、利用者様との関りや従業員・スタッフを守るためにも必要な研修を、質の高い講師を招き行ったことにより、障がい当事者に寄り添った支援を行い、また、働くスタッフが安全で健康に働き続ける職場環境を推し進める一助となった。</p>
<p>参加者からの声</p>	<p>人権を学びました。その人に合った支援をする必要があると考えることができました。もっと勉強する必要があると思いました。「今まさに困ってんねん」への1つの答えのようなものがめちゃめちゃ参考になりました。お互いが傷付かないようにその場を過ごし、外的要因やパーソナリティに注目する支援内容を考えられたらめちゃ素敵だなと思いました。新しい研修内容であった。今までのやり方が間違ってる所が多かったです。実際に体験して学ぶことができ、理解もしやすく身につけることができました。1人の利用者さんのことが頭に浮かびました。「やれてたこと」「誤学習させてたかもしれないこと」などを思い返していた。職場環境を悪化させる行為もパワハラになる可能性があること。パワハラは当事者同士のことだと思っていました。内容もわかりやすくても適量でした。伝え方、伝わり方に配慮が必要と感じました。答えの出ない課題だと感じた。具体的な例を挙げてくださいわかりやすかった。自分も虐待する可能性を痛いほど感じました。視点のポイントから整理して考えるのはとても</p>

	<p>分かりやすかったし、立ち返るポイントにもしやすと感じた。持ち帰って法人内でも試してみたい。ケースワークはやはり重要だと思う。バリアって何だろうと考えさせられました。</p>
<p>今後の課題点、改善点等</p>	<p>1 研修への参加人数が、20名弱と少なく、目標の50名に達することができなかった。</p> <p>ワークを行ったり、受講者（事業所）相互の交流のためには2時間では足りない。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>参加実績名簿は39名であるも、毎回参加いただければ1研修50名は不可能ではない。</p> <p>今年度のメニュー以外にも「こんな講座もして欲しい」の声がある。</p> <p>連絡先事業所のメールアドレスが増えた。（26→52件）</p>
<p>事業の自立に向けた計画</p>	<p>参加人数を増やすために、①障がい者支援以外の事業所にも呼び掛ける。②52事業所から更に連絡先を増やす。③オンラインに加え、「後日DVDによる受講」を周知する。</p> <p>事業所間のネットワーク強化のため、「受講者懇親会」を開催する。</p> <p>研修メニューを6→8回に増やす。</p> <p>これらをもって、来年度1研修50名から、再来年度100名をめざす。</p>